

1

説明的文章(1)

◆指導ページ P.2～7◆

【指導のポイント】

- ★指示語が指す内容を的確に捉えさせる。
- ★具体的事例が示す内容をつかませ、文章理解を深めさせる。
- ★筆者の最も述べたいことを理解できるようにする。

演習問題		問題ページ
(6)	(5)	(4)
(3)	(2)	(1)
<p>① 指示語の指示内容を捉える場合は、指示語の前の部分に注目させる。「それは、直後の「無学な人」のことであるが、この「無学な人」は、前の二文にある「実際に仕事を……覚えていく人たち」のことであり、「経験を積むこと」によって……人間としても成長する」人のことである。指示内容と思われる部分がわかったら、指示語の部分に入れてみて、意味が通じるかどうかを確かめさせる。</p> <p>直前に「そんなわけで」とあることに着目させ、前の段落の内容を受けていることを捉えさせる。「知識階級」が「労働らしい労働もしない生活」を「高級だと思った」ことが述べられている。</p> <p>② 理由を問う問題では、「～から～」などの理由を示す文末表現に着目させることが基本となるが、ここでは、直後の一文にある「知識をたくさん……考えたのです」に着目させ、理由を述べる形にあてはめても意味が通るので解答となることを捉えさせる。</p> <p>③ 二つあとの段落の冒頭に、「近代以前の社会では」とあるので、この段落から「近代以前の社会」にあった教育を捉えさせる。</p> <p>接続語を選ぶ問題では、接続語の前後の内容をよく読ませ、それらがどのような関係になっているかを捉えさせる。□の直前では「近代以前の社会」について述べられている。□の直後は「この経験の段階」とは、親方に弟子入りして成長していく「経験の序列」を指しており、それが「否定され」たとあることから、逆接の文脈であることをつかませる。</p> <p>④ 「この経験の段階」は、直前の段落の「こうした経験の序列」のことであることを捉えさせるが、そこには「こうした」という指示語があるので、具体的な内容について、その前をさらにさかのぼるようにする。</p> <p>⑤ ここでは「近代以降の社会」について述べていることを押さえさせる。経験よりも知識を重視した結果、どのようなことが起こったかは、直後の「しかし」で始まる段落に述べられている。</p> <p>最終段落に注目させる。「知識万能は誤った考えだといわざるを得ません」と述べ、またそのあとに、経験がなければ「まっとうな人間にはならないでしょう」とあることを捉えさせる。また、第一段落に「経験を積むこと」によって……人間としても成長する」とあり、最終段落の内容とも対応していることにまでき目させるとよい。説明文では筆者の考えが言葉を変えて繰り返されるので、言葉がどのように対応しているのか意識しながら読むことを指導したい。</p>		<p>指導内容・留意事項など</p>

復習問題		問題ページ
(8)	(7)	(6)
(5)	(4)	(3)
(2)	(1)	(P7)
<p>① 電話は、「掛ける側」には便利でも、「受ける側」は「掛ける側」の都合に合わせてなければならない。そのことを「話が違う」と述べていることを捉えさせる。</p> <p>② 直後の段落で、内田百間の随筆の中にある「来客中に掛かってくる無遠慮な電話」という例を挙げて、電話を「受ける側」が「掛ける側」の都合で振り回されることを説明している。</p> <p>③ 1・2段落で見てきたことを踏まえ、前後に述べられている電話と手紙の内容に合うものを選ぶようにさせる。</p> <p>前の部分に着目させる。ここは手紙について述べている部分であり、手紙を書きたくないから電話やメールを使うから書けなくなるという「悪循環」に陥っているということである。</p> <p>④ ここは手紙について述べている部分であり、これと対応する形で、前の部分で電話について述べられていることに着目させる。「発信専用」にできたら……そう理想どおりには運ばない」と述べている。手紙の場合も電話の場合も、「理想どおりには運ばない」「名案も実現はむずかしい」と述べているのである。</p> <p>□の直前の段落では、手紙をもらうのはうれしが書くのがわずらわしいということが述べられているが、直後からは手紙のよさが列挙されていることを捉えさせる。逆接の関係である。</p> <p>⑤ 4段落から捉えられる手紙のよさをあてはめていく。「すぐに返事をもらうことができる」のは、電話のよさのことである。</p> <p>⑥ ①——線⑥は、理想的な手紙について述べている。直後の一文の「よい手紙は」以降に、別の表現で同じことが書かれている。</p> <p>⑦ ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿</p> <p>⑧ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿</p>		<p>指導内容・留意事項など</p>

重要語句

- 理不尽＝道理に合わないこと。
- 水くさい＝親しい間柄なのに、他人行儀でよそよそしい。

2

説明的文章(2)

【指導のポイント】

◆指導ページ P.8～13◆

- ★接続語に注目し、文脈を捉えさせる。
- ★各段落に書かれている内容を把握させ、文章構成を理解させる。
- ★具体例として書かれている内容を捉えつつ、筆者の意見を読み取らせる。

演習問題		問題ページ
(P11)	(8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)	問題番号
<p>○ふんだんに十分なほど多い。</p> <p>○喚起＝呼び起こすこと。</p> <p><b>重要語句</b></p>	<p>6 段落に注目させる。答えは、いつも近くにあるとは限らないので、文章全体を読み通すことが必要。</p> <p>——線②と同じことを述べている11～13行目に注目。</p> <p>「人によって……連想するものがあることがよくあります」</p> <p>=</p> <p>受け手、聞き手によってちがう連想を呼び覚ます (結果)</p> <p>⇒</p> <p>連想はやや主観的で、文化的に強く影響されますから(理由)</p> <p>理由は、すぐ近くに書かれていることが多いことを確認し、「から」に注目させ、指定字数以内でまとめさせる。</p> <p>3 段落冒頭の「しかも」に注目させ、3 段落が2 段落に付け加えられていることを押さえさせる。空欄直前の文にも注目。「イヌ」という言葉↓いろいろな反応がある＝「コノテーション」という文脈をつかませ、字数もヒントにして考えさせる。</p> <p>「内容を捉え直そう」でまとめた、文化によるちがいが書かれた4 段落の内容を整理させる。</p> <p>23 行目＝夏は非常に蒸し暑い季節……日本</p> <p>25・26 行目＝夏は非常に暑い季節……北ヨーロッパ</p> <p>B 空欄の前が理由、後が順当な結果↓順接「だから」。</p> <p>C 日本では「春が終わるのを嘆く」、ヨーロッパでは「夏が過ぎ去ることを残念だと思う」という、空欄前後で食い違う内容になっている↓逆接「ところが」。</p> <p>「内容を捉え直そう」を復習させる。「連想」が、どのようなところで使われているかを捉えさせ、同じようなことが書かれている34 行目に注目させ、置き換えてみて確認させる。</p> <p>「文章の流れをつかもう」の内容と、文章の終わりに筆者の考えが書かれていることが多いことから6 段落に注目。</p> <p>「文章の流れをつかもう」と(7)の問題、および段落の冒頭にある接続語がポイント。2 段落の「ところが」に注目。ここから「デノテーション」について書かれた1 段落とは話題が変わると考えられる。あとは、文脈に沿って捉えさせる。2～5 段落は「コノテーション」について、6 段落は筆者の意見。</p>	指導内容・留意事項など

復習問題		問題ページ
(P13)	(8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)	問題番号
<p>○ダイナミック＝力強く生き生きと動くさま。</p> <p>○包含＝内部に包み含んでいること。</p> <p><b>重要語句</b></p>	<p>2 段落で、「死は生とおなじように、ダイナミックな営み」であると述べられていることをもとに、生と死には「おなじ価値」があると言えることを捉える。</p> <p>B 空欄の前の「終止符を打ちます」と、空欄の後の「生きつづけます」とが反対の内容↓逆接「しかし」。</p> <p>C 空欄の前の「望ましくない状態になっていく」を理由として、空欄の後の「自然」は「個体ごと全部殺してしまうという方法」を「選んだ」という結果が示されている↓順接「そこで」。</p> <p>直前の「このように見てくると」に着目し、指示範囲である1～4 段落の内容を整理させる。「死は……」と説明されている2 段落に着目。</p> <p>——線②の直後で「それは……だからです」と理由が説明されていることに、まず注目させる。その上で、「多細胞動物」における「細胞集団」の「維持」の仕方をあとの記述から読み取らせる。</p> <p>——線③にある近称の指示語「これ」に着目して、8 段落で説明されている内容を整理させる。</p> <p>9 段落を受けて、10 段落で「いのち」を二つの側面で述べている。</p> <p>3 段落の「四〇億年の生命の歴史」などの記述から、「四〇億年の歴史」＝「生命の歴史」であることを捉えさせる。</p> <p>①「一〇〇年の意識」は、1 段落に「一〇〇年に満たない死への歩み」などであることから、「個人」の意識であるとわかる。なお、「個体」はこの文章では「生物学的な死」について述べる際に用いられている語なので、「一〇〇年の意識」を説明する語としては適当ではない。</p> <p>説明的文章では、終わりの部分で文章全体をまとめ、主張したいことを述べることが多い。筆者は「生命」と「個人」という「死」の二つの面を取り上げ、最後には、「生命の歴史とともに……すべてを包含する」と述べている。</p> <p>接続語や新たな話題の提示など、話題の転換を示す表現に着目させる。</p> <p>6 段落冒頭で「死」に対する疑問が提示されて話題の転換がなされ、その疑問に対する説明が6～8 段落で述べられる。</p> <p>「生物学的な死はどのようなものか」</p> <p>「人間が死ぬのはなぜか」</p> <p>「死の意味といのちの重み」</p> <p>1 5 6 8 9 10</p>	指導内容・留意事項など

3

説明的文章(3)

【指導のポイント】

◆指導ページ P.14～19◆

- ★指示語・接続語をもとに前後の段落とのつながりを捉えさせる。
- ★段落相互の関係の積み重ねから、文章の展開を理解させる。
- ★筆者の意見を読み取らせる。

演習問題		問題ページ
(P17)	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)	16
(P16)	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)	16
<p>指導内容・留意事項など</p> <p>——線①より前の1段落の内容を整理して、指示内容を把握させる。「この四段階」とは、「ことば」が発せられる段階を述べたものである。</p> <p>1段落の内容を踏まえつつ、2段落で述べられている、「ことば」には最初に「心(≡表すべき実体)」があるべきだ、という筆者の意見を捉えさせる。</p> <p>接続語を選ぶ問題では、接続語の前後の内容をよく読ませ、それらがどのような関係になっているかを捉えさせる。</p> <p>A ≡ 「心」のある「ことば」の具体例を挙げている↓例示「たとえば」。</p> <p>B ≡ 直前の段落までは「ラジオ」について述べられており、直後から「テレビ」という「ラジオ」と違って「画像(≡絵)」があるものについて述べている↓逆接「ところが」。</p> <p>「それはラジオ時代なのだ」とある。「ラジオ」については、「昔のこととして」3～6段落で述べられているので、その内容を捉えさせる。</p> <p>直前の「そこで」は、前に述べた事柄を前提として後に述べる事柄が起ることを表す働きをする、順接の接続語であることに注意させる。前の8～10段落では、「テレビ」とアナウンサーの関係性について述べられており、野球やサッカーの試合の中継を具体例として、「テレビ」では画像を見ているから、アナウンサーは何も言う必要がない」と、「ラジオ」にはない「テレビ」特有の事情が述べられていることを捉えさせる。</p> <p>この文章では、1・2段落で述べた意見をもとに、論が展開されていることを捉えさせる。</p> <p>この文章は、次のような段落構成になっている。</p> <p>「ことば」とはどのようなべきか…1・2</p> <p>「ラジオ」におけるアナウンサーと「ことば」の関係性…3～7</p> <p>「テレビ」におけるアナウンサーと「ことば」の関係性…8～11</p> <p>1・2段落で筆者は自分の意見を述べ、それをさらに説明するために、「ラジオ」と「テレビ」を対比させている構成を捉えさせる。</p>		
<p>重要語句</p> <p>○ボキャブラリー≡語彙。ここでは、その人が使うことのできる語の総量をいう。</p>		

復習問題		問題ページ
(P19)	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)	19
(P18)	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)	18
<p>指導内容・留意事項など</p> <p>「無意味でしかない」(≡意味をなさない)のあとに、「……からである」という理由を表す表現があることに着目させる。</p> <p>——線②の直前に「では」とあることに着目し、1段落の「大きな石」とは異なる場合で「呼応可能な間柄」が成立しない例を挙げていることを捉えさせる。</p> <p>直前の2段落へと目を向け、「(エイリアン相手のときには)怖くて呼びかけようと試みることもできない」という内容を指していることを捉えさせる。</p> <p>接続語の前後の内容がどのような関係になっているかを捉えさせる。</p> <p>A ≡ 直前に「呼びかけることは……できない」と2段落の内容がある。直後には「呼応可能な間柄が成立している……ことでもある」とあり、2段落の内容から導かれたことが述べられている↓順接「したがって」。</p> <p>B ≡ 前で述べられている内容を、あとで別の表現で言い換えている↓「つまり」。</p> <p>④ 「どのようにして、互いに呼びかけ・応じうる間柄を生きていられるのだろうか？」という問いかけの答えとして、「呼応可能な間柄が成立している」ということは「意見を展開していることを捉えさせる」。</p> <p>⑤ ——線④の直後の5段落で、「呼応可能な間柄」が成立するためには、相手が自分のふるまいを「どう受けとめるだろう」「相手はどう応じるだろう」という「予期」が、共有されていなければならない」と述べられている。</p> <p>6段落の最後の一文に「『一般化』された『規範的』な予期」という言葉で同じ内容が出てくることに着目させる。その上で、「いかなれば」という言い換え表現をもとに捉えさせる。</p> <p>人間が呼応可能な間柄である条件をつかむようにさせる。5段落に、「予期」を「共有」することで呼応可能な間柄が成立しているということが述べられている。</p> <p>3段落冒頭の「しかし」に着目。</p> <p>呼応可能な間柄が成立しない場合…1・2</p> <p>呼応可能な間柄が成立する場合…3～6</p> <p>3～6段落で人間の関係性について筆者が自分の意見を展開している。</p>		
<p>重要語句</p> <p>○常態≡いつもの状態。</p>		

4

説明的文章(4)

【指導のポイント】

◆指導ページ P.20～25◆

- ★具体例の内容を捉えさせる。
- ★事実が述べられている箇所と筆者の意見が述べられている箇所とを区別して読み取らせる。
- ★事実として述べられている内容を踏まえ、筆者の意見を読み取らせる。

演習問題		問題ページ
(6)	(5)	(P23)
(4)	(3)	(P22)
(2)	(1)	
<p>○ ネットワークII物事の障害となっているもの。 ○ ギャップIIずれ。食い違い。</p> <p><b>重要語句</b></p>		<p>指導内容・留意事項など</p> <p>——線①の直前の「そこがネックになり」に着目し、指示語「そこ」の内容を捉えさせる。</p> <p>A のある文に着目し、「精密で正確なことを行うにも安定した環境が必須」と「速い者同士のタイミングを合わせるにも、環境がAしている必要があります」とが並列の関係になっていることを捉えさせる。</p> <p>④ —線②の直前の「4段落に「体の時間」についての事実が述べられているので、その記述と各選択肢の記述とを対照させる。</p> <p>⑤ 筆者の意見が述べられる際によく見られる「(〜)と私は思う」「私の考える〜」などの言葉に注目させる。——線②の直前の段落で「体の時間」についての事実が述べられており、その内容を踏まえて、——線②を含む文で「……、と私は思っています」と述べられている。</p> <p>接続語の前後の内容がどのような関係になっているかを捉えさせる。「私たちの心臓のリズムや肺のリズムを、同じサイズの他の哺乳類と比べてみても、大きな違いは見られないのです」と述べられたあと、「心臓の一回の拍動は私たちでは〇・九秒ですが」と具体的な数値を挙げて説明されている↓例示「たとえば」。</p> <p>C の前にある「リニアモーターカー、光ファイバーのインターネット等々」「新車の大きな広告」という具体例を受けて、段落の最後の一文で、「速いことは良いことだ、より速く便利であればより幸せだ、というのが現代の価値観なのです」と、「現代の価値観」が説明されている。この文脈を踏まえて、挙げられている具体例がどのようなものであるかを捉えさせる。</p> <p>説明的文章では、終わりの部分で文章全体をまとめ、主張したいことが述べられることが多い。この文章でも、最後の段落で「より速くという社会の要請」に応えて便利なものを作ればつくるほど、私たちは「不幸」になっていくと述べられている。あわせて、最後から二つめの段落で「私たちは本当に幸せだと感じられるのでしょうか？」と疑問を呈していることをもとに、本当の幸せとは何かを考え直すべきだという筆者の意見を捉えさせる。</p>

復習問題		問題ページ
(7)	(6)	(P25)
(5)	(4)	(P24)
(3)	(2)	
(1)		
<p>○ 醸成IIある状態や気運などを次第に作り上げていくこと。</p> <p><b>重要語句</b></p>		<p>指導内容・留意事項など</p> <p>A 「ピュアな怒りとか純度100%の愛などというものはこの世にはない」と述べられたあと、「怒りの感情」を例に挙げて説明されている↓例示「例えば」。</p> <p>B 「B」のあとにある「そんなまね」は、前にある「いきなりごつんと殴る」を指していることを、まず捉えさせる。「できない」と前の部分とは反対の内容↓逆接「しかし」。</p> <p>指示語の前の部分に注目させ、指示内容を捉えさせる。直前の部分の「怒りの表情」や「怒声」を指すが、書きぬきなので「」も忘れずに書くことに注意させる。</p> <p>(2)で捉えた文脈を踏まえて考えさせる。「怒鳴り合い」をするのは、「怒りの感情」を成立させるため、つまり、気分を高揚させて「怒りの感情」を成り立たせるためだと述べられている。</p> <p>「最近の風潮」については、——線③のあとに説明されていることを捉えさせる。</p> <p>A 「単純な感情のうちに集約して」としてとある。</p> <p>④ 段落の最後に「……ではないだろうか」という筆者の考えを示す表現が用いられていることに注目させる。</p> <p>A 「感情を割る」ということは、——線④のあとに説明されていることを捉えさせる。</p> <p>⑤ 「……というふうに呼んでいた」という設問文に対応した言葉があることに着目し、段落の最後の文に注目させる。現代人とは対照的な人物であることを押さえる。</p> <p>「わかりやすさ」と並列の関係にあるものを探すようにさせる。直後に、「人間というのは、そんなに簡単に『わかりやすく』『単純』になれるものなのだろうか」とあることに着目し、「単純」と対応している工を導く。</p> <p>最終段落への着目を促す。最後の文に述べられている「人間本来の底知れなさを無視して、単純な『型』のうちに流し込むことの本質的な危険性に人々は気づいているのであろうか」に着目させる。</p>

# 小説文(1)

【指導のポイント】

◆指導ページ P.26～31◆

- ★登場人物の行動や様子を的確に捉えさせる。
- ★状況を表している言葉に注目させ、文章理解を深めさせる。
- ★言い換えや文学的な表現について理解させる。

演習問題		問題ページ	指導内容・留意事項など			
(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(P28)	<p>指導内容・留意事項など</p>
<p>○致命的なミス・失敗などの原因となるほど重大なさま。</p> <p><b>重要語句</b></p> <p>致命的なミス</p> <p>「内容を捉え直そう」を復習させる。直後の文に注目。</p> <p>「内容は……博士は彼自身の中では既に死者となっているルート……」</p>	<p>「初歩的なミス」</p> <p>←博士の記憶がないことすら忘れていた</p> <p>「致命的なミス」</p> <p>＝博士↓自分の病を、自らのメモで宣告される</p> <p>↓残酷な宣告↑「私」は気付いていなかった</p> <p>「内容を捉え直そう」を復習させる。直後の文に注目。</p> <p>＝もう二度と取り返せない</p> <p>「内容を捉え直そう」を復習させる。直後の文に注目。</p> <p>＝もう二度と取り返せない</p> <p>「内容を捉え直そう」を復習させる。直後の文に注目。</p> <p>＝もう二度と取り返せない</p>	<p>「文章の流れをつかもう」を踏まえ、直後に注目させる。</p> <p>「私」：覗き込む</p> <p>←初歩的なミス＝昨日の野球や「私」のことを忘れていた</p> <p>博士：私の肩を、押し戻し、顔を背けた</p> <p>「文章の流れをつかもう」や「内容を捉え直そう」でまとめたことを参考に、直後の博士の様子と26～28行目に注目させる。「私」の初歩的なミスのために、博士が一番大切なメモを見て自分の記憶が80分しかもたないことを知ったことを読み取らせる。</p> <p>② 22～24行目に注目。</p> <p>「ひっそりとした泣き声」↓かなり小さな声と判断できる</p> <p>↓彼の口から聞こえているとは気付かない</p> <p>壊れたオルゴールが鳴っているのかと錯覚</p> <p>「どのように聞こえたか」と問われているので、「……ように聞こえた」と答えさせる。</p> <p>③ 本文中に直接わかる記述がないので、「内容を捉え直そう」を手がかりに消去法で考えさせる。18行目～21行目と24・25行目に注目。</p> <p>心だけが行き場を見失い</p> <p>全身から生気が失われていた↓ウの「期待」とエは不適</p> <p>自分一人きりのためのひっそりとした泣き声</p> <p>↓他人に対する感情ではない↓イは不適</p> <p>最終段落に注目させ、「内容を捉え直そう」で整理したことを確認させる。</p>	<p>「文章の流れをつかもう」を踏まえ、直後に注目させる。</p> <p>「私」：覗き込む</p> <p>←初歩的なミス＝昨日の野球や「私」のことを忘れていた</p> <p>博士：私の肩を、押し戻し、顔を背けた</p> <p>「文章の流れをつかもう」や「内容を捉え直そう」でまとめたことを参考に、直後の博士の様子と26～28行目に注目させる。「私」の初歩的なミスのために、博士が一番大切なメモを見て自分の記憶が80分しかもたないことを知ったことを読み取らせる。</p> <p>② 22～24行目に注目。</p> <p>「ひっそりとした泣き声」↓かなり小さな声と判断できる</p> <p>↓彼の口から聞こえているとは気付かない</p> <p>壊れたオルゴールが鳴っているのかと錯覚</p> <p>「どのように聞こえたか」と問われているので、「……ように聞こえた」と答えさせる。</p> <p>③ 本文中に直接わかる記述がないので、「内容を捉え直そう」を手がかりに消去法で考えさせる。18行目～21行目と24・25行目に注目。</p> <p>心だけが行き場を見失い</p> <p>全身から生気が失われていた↓ウの「期待」とエは不適</p> <p>自分一人きりのためのひっそりとした泣き声</p> <p>↓他人に対する感情ではない↓イは不適</p> <p>最終段落に注目させ、「内容を捉え直そう」で整理したことを確認させる。</p>	<p>「文章の流れをつかもう」を踏まえ、直後に注目させる。</p> <p>「私」：覗き込む</p> <p>←初歩的なミス＝昨日の野球や「私」のことを忘れていた</p> <p>博士：私の肩を、押し戻し、顔を背けた</p> <p>「文章の流れをつかもう」や「内容を捉え直そう」でまとめたことを参考に、直後の博士の様子と26～28行目に注目させる。「私」の初歩的なミスのために、博士が一番大切なメモを見て自分の記憶が80分しかもたないことを知ったことを読み取らせる。</p> <p>② 22～24行目に注目。</p> <p>「ひっそりとした泣き声」↓かなり小さな声と判断できる</p> <p>↓彼の口から聞こえているとは気付かない</p> <p>壊れたオルゴールが鳴っているのかと錯覚</p> <p>「どのように聞こえたか」と問われているので、「……ように聞こえた」と答えさせる。</p> <p>③ 本文中に直接わかる記述がないので、「内容を捉え直そう」を手がかりに消去法で考えさせる。18行目～21行目と24・25行目に注目。</p> <p>心だけが行き場を見失い</p> <p>全身から生気が失われていた↓ウの「期待」とエは不適</p> <p>自分一人きりのためのひっそりとした泣き声</p> <p>↓他人に対する感情ではない↓イは不適</p> <p>最終段落に注目させ、「内容を捉え直そう」で整理したことを確認させる。</p>		

演習問題		問題ページ	指導内容・留意事項など							
(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(P31)	(P30)	<p>指導内容・留意事項など</p>
<p>○我を忘れる＝物事に心を奪われる。</p> <p><b>重要語句</b></p> <p>我を忘れる</p> <p>「包んでいた手を少しだけ開いて、蛍をよく見てみると、……」と「ぼく」の行動が書かれている。</p> <p>蛍をホタルブクロに入れた瞬間の二人の様子を表していることを押さえた上で、「うっとりとして」という言葉にあらうものを選べばよい。</p> <p>① 文脈を追い、その様子が「花びらのなかで蛍が光ると……ように見えた」と描かれていることに着目させる。</p> <p>② 蛍をホタルブクロに入れたあとの夏美の言葉に、「……みたい」とたとえの表現があることに着目させる。</p> <p>登場人物のいる場所を、場面の变化を捉える時の注目箇所とさせる。</p> <p>——線③の少し前の「橋のたもと急斜面を……降りていった」「川原に立つと、そこはもう別世界だった」より場面の変化を捉える。</p>	<p>「包んでいた手を少しだけ開いて、蛍をよく見てみると、……」と「ぼく」の行動が書かれている。</p> <p>蛍をホタルブクロに入れた瞬間の二人の様子を表していることを押さえた上で、「うっとりとして」という言葉にあらうものを選べばよい。</p> <p>① 文脈を追い、その様子が「花びらのなかで蛍が光ると……ように見えた」と描かれていることに着目させる。</p> <p>② 蛍をホタルブクロに入れたあとの夏美の言葉に、「……みたい」とたとえの表現があることに着目させる。</p> <p>登場人物のいる場所を、場面の变化を捉える時の注目箇所とさせる。</p> <p>——線③の少し前の「橋のたもと急斜面を……降りていった」「川原に立つと、そこはもう別世界だった」より場面の変化を捉える。</p>	<p>「包んでいた手を少しだけ開いて、蛍をよく見てみると、……」と「ぼく」の行動が書かれている。</p> <p>蛍をホタルブクロに入れた瞬間の二人の様子を表していることを押さえた上で、「うっとりとして」という言葉にあらうものを選べばよい。</p> <p>① 文脈を追い、その様子が「花びらのなかで蛍が光ると……ように見えた」と描かれていることに着目させる。</p> <p>② 蛍をホタルブクロに入れたあとの夏美の言葉に、「……みたい」とたとえの表現があることに着目させる。</p> <p>登場人物のいる場所を、場面の变化を捉える時の注目箇所とさせる。</p> <p>——線③の少し前の「橋のたもと急斜面を……降りていった」「川原に立つと、そこはもう別世界だった」より場面の変化を捉える。</p>	<p>「包んでいた手を少しだけ開いて、蛍をよく見てみると、……」と「ぼく」の行動が書かれている。</p> <p>蛍をホタルブクロに入れた瞬間の二人の様子を表していることを押さえた上で、「うっとりとして」という言葉にあらうものを選べばよい。</p> <p>① 文脈を追い、その様子が「花びらのなかで蛍が光ると……ように見えた」と描かれていることに着目させる。</p> <p>② 蛍をホタルブクロに入れたあとの夏美の言葉に、「……みたい」とたとえの表現があることに着目させる。</p> <p>登場人物のいる場所を、場面の变化を捉える時の注目箇所とさせる。</p> <p>——線③の少し前の「橋のたもと急斜面を……降りていった」「川原に立つと、そこはもう別世界だった」より場面の変化を捉える。</p>	<p>「包んでいた手を少しだけ開いて、蛍をよく見てみると、……」と「ぼく」の行動が書かれている。</p> <p>蛍をホタルブクロに入れた瞬間の二人の様子を表していることを押さえた上で、「うっとりとして」という言葉にあらうものを選べばよい。</p> <p>① 文脈を追い、その様子が「花びらのなかで蛍が光ると……ように見えた」と描かれていることに着目させる。</p> <p>② 蛍をホタルブクロに入れたあとの夏美の言葉に、「……みたい」とたとえの表現があることに着目させる。</p> <p>登場人物のいる場所を、場面の变化を捉える時の注目箇所とさせる。</p> <p>——線③の少し前の「橋のたもと急斜面を……降りていった」「川原に立つと、そこはもう別世界だった」より場面の変化を捉える。</p>	<p>「包んでいた手を少しだけ開いて、蛍をよく見てみると、……」と「ぼく」の行動が書かれている。</p> <p>蛍をホタルブクロに入れた瞬間の二人の様子を表していることを押さえた上で、「うっとりとして」という言葉にあらうものを選べばよい。</p> <p>① 文脈を追い、その様子が「花びらのなかで蛍が光ると……ように見えた」と描かれていることに着目させる。</p> <p>② 蛍をホタルブクロに入れたあとの夏美の言葉に、「……みたい」とたとえの表現があることに着目させる。</p> <p>登場人物のいる場所を、場面の变化を捉える時の注目箇所とさせる。</p> <p>——線③の少し前の「橋のたもと急斜面を……降りていった」「川原に立つと、そこはもう別世界だった」より場面の変化を捉える。</p>	<p>「包んでいた手を少しだけ開いて、蛍をよく見てみると、……」と「ぼく」の行動が書かれている。</p> <p>蛍をホタルブクロに入れた瞬間の二人の様子を表していることを押さえた上で、「うっとりとして」という言葉にあらうものを選べばよい。</p> <p>① 文脈を追い、その様子が「花びらのなかで蛍が光ると……ように見えた」と描かれていることに着目させる。</p> <p>② 蛍をホタルブクロに入れたあとの夏美の言葉に、「……みたい」とたとえの表現があることに着目させる。</p> <p>登場人物のいる場所を、場面の变化を捉える時の注目箇所とさせる。</p> <p>——線③の少し前の「橋のたもと急斜面を……降りていった」「川原に立つと、そこはもう別世界だった」より場面の変化を捉える。</p>	<p>「包んでいた手を少しだけ開いて、蛍をよく見てみると、……」と「ぼく」の行動が書かれている。</p> <p>蛍をホタルブクロに入れた瞬間の二人の様子を表していることを押さえた上で、「うっとりとして」という言葉にあらうものを選べばよい。</p> <p>① 文脈を追い、その様子が「花びらのなかで蛍が光ると……ように見えた」と描かれていることに着目させる。</p> <p>② 蛍をホタルブクロに入れたあとの夏美の言葉に、「……みたい」とたとえの表現があることに着目させる。</p> <p>登場人物のいる場所を、場面の变化を捉える時の注目箇所とさせる。</p> <p>——線③の少し前の「橋のたもと急斜面を……降りていった」「川原に立つと、そこはもう別世界だった」より場面の変化を捉える。</p>			

# 小説文(2)

【指導のポイント】

◆指導ページ P.32～37◆

- ★登場人物の言動やその理由などに着目し、心情を読み取る。
- ★場面の様子や状況を整理して捉える。
- ★場面状況や登場人物の心情を通して、描かれている主題を捉える。

演習問題		問題ページ
(7)	(6)	(5)
(4)	(3)	(2)
(1)	(P35)	(P34)
指導内容・留意事項など	前書きや文章全体から場面の様子(部活後の帰り支度の最中・暗い部室の中)であることを捉えさせる。 (1)で捉えた場面状況を踏まえる。——線①のあとで、「俺」が「なんのことだよ」と言っており、その発言を受けて孝介が「ちゃんと……」と答えを返していることに着目させればよい。 ——線②の前後に書かれている「俺」の様子に注目させる。「嫌な温度」という表現から「俺」の「嫌な」気持ちを読み取り、そんな気持ちを孝介に悟られたくなくて、「俺」は孝介のほうを見ないようにしたと考えていけばよい。 「こいつの言葉」が指すものが、前にある孝介の言葉であることをまず捉えさせる。その上で、あとにある「孝介の声には、べつとりとした嫌な感情なんてまるでないように感じられる」「他意がないということがわかる」という記述を捉えさせる。孝介のこれらの言葉からは、これまで補欠だった「俺」が初めてレギュラーとして公式戦に出られることを喜んでいないと推察でき、それがわかる。そうした思いを素直に口に出すことができる孝介の性格と「俺」の心情が対照的に描かれていることを押さえさせる。 ——線④の前後の記述に着目させ、二行後に「じくじくじく」と嫌な気持ち」と書かれていることを捉えさせる。字数指定に注意させる。 小説では、人物の心情を直接的な表現ではなく、間接的な表現によって描いている場合があるので、まず間接的な表現の印象やイメージを捉え、登場人物の心情との関わりをつかんでいくようにさせる。「ふわふわと漂っている暗闇」という表現にある「暗く不安定な感じ」は、——線⑤の直後にある「俺は、嫌な奴だ」という心情と対応していることを読み取らせる。 小説文では、作者が最も強く表そうとしている主題を表現から読み取れることがある。地の文にある「くだらう。」「くではないか。」「くじゃないか。」などの推量や疑問を表す表現に着目させる。この文章は「俺」の視点で描かれており、推量や疑問を表す表現に着目すると、「どうしてだろう、俺とコイツは何が違うんだろう」という表現があることが捉えられる。またそのあとには、「俺はこうはなれない」とあり、孝介の前向きな言動との対比により、「俺」の複雑な心情を際立たせていることが捉えられる。	

復習問題		問題ページ
(8)	(7)	(6)
(5)	(4)	(3)
(2)	(1)	(P37)
(P36)	指導内容・留意事項など	直前の「わたし」の「このままいけば……できそうですね」に対して土屋副部長が言った言葉であることを押さえる。柏木部長と「わたし」が最近の練習のときについて話しているところに、土屋副部長が指摘を入れる場面であることを捉えさせる。 前後に着目し、心情を表す描写がないか確認させる。 ① ——線③のあとの記述を追い、「とんでもない忘れ物をしていって、指摘してくれているのだ」「忘れ物の中身が何であるのかさっぱりわからない」という「わたし」の状況を捉えさせる。 ② ——線③のある段落の最後にある「右往左往するような気持ち」という、心情を表す表現に着目すればよい。 ——線④の直前にある「わたしはずいぶん長い時間とほけた顔で土屋副部長の顔を見返した」「イラついた顔の土屋副部長」という表現をもとに、土屋副部長が「わたし」に腹を立てていることを捉えさせる。 ——線⑤の直後に「指差したのは、……」とあることに着目させればよい。 前の設問で見てきた場面状況を確認し、パートリーダーでありながら、花岡さんが出していない音があるということに全く気づかず、「え？ 本当に？」と訊き返す「わたし」に対する土屋副部長の気持ちを考えさせる。「蔑み」は「ばかにすること・見下すこと」。 「からだの血液全てが足元に下がっていくのを感じた」という表現は、血の気が引き青ざめた表情で立ち尽くす様子を表していることを捉えられるかが重要となる。自分のパートの中の一人が、クライマックスへと向かう重要な場面で音を出していないことに全く気づいていなかったという事実には、「わたし」はショックを受けた。「コトの重大さを悟った」ことを捉える。「愕然とする」は「衝撃を受け、非常に驚く」。 この文章の場面は、「フルートの仕上がりは悪くない」と思い込んでいた「わたし」が、土屋副部長に思わぬことを指摘されるところから始まり、その指摘に混乱し動揺する様子を中心に描かれていることを捉えさせる。

**重要語句**

○右往左往 〓あわてふためいて混乱している状態。

7

随筆文

【指導のポイント】

◆指導ページ P.38～43◆

- ★情景描写から筆者が感じたことを読み取らせる。
- ★比喩表現に注目させ、表現されている内容を捉えさせる。
- ★文章全体を通して筆者が最も述べたかったことを読み取らせる。

演習問題		問題ページ	指導内容・留意事項など						
(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(P41)	(P40)	問題番号
<p>○切実⇨自分の身に差し迫ってくること。</p> <p><b>重要語句</b></p>		<p>「文章の流れをつかもう」「内容を捉え直そう」を参考にさせる。「切実さ」というキーワードに注目し、絵の世界に入りこまれた筆者の思いを捉えさせる。</p> <p>私はそこに立ちながら、……拙い絵を眺めている気ですそこにいたまなちゃんの絵</p> <p>⇒岸田劉生の絵を前にして</p> <p>岸田劉生の絵↓まなちゃんが描いた絵と、よく似た構図</p> <p>最後の文に注目させる。</p> <p>「そういう気持ち」は子どものほうが……強い」↓エ</p> <p>「人は、……先の見えないほど続いていく道に、どうしようもなくひかれる」⇨習性⇨イ</p> <p>=</p> <p>何か奇妙な切実さ⇨上り坂の向こうの景色をたしかめたい</p> <p>直前の文に注目させる。「切実さ」が持つ力を具体的に説明した部分をもとに、「どのような力」という問いに合わせて、「……力」と結びよう指導する。</p> <p>最終段落に注目させ、「内容を捉え直そう」で整理した内容を手がかりに考えさせる。</p> <p>「人は、……先の見えないほど続いていく道に、どうしようもなくひかれる」⇨習性⇨イ</p> <p>「文章の流れをつかもう」を確認し、何が「見る側を絵のなかにひきずりこんでいく」のか、——線②を含む一文の主語を捉えさせる。</p> <p>その切実さ⇨「好むと……ひきずりこんでいく」</p> <p>=</p> <p>夏の終わりの蒸し暑さ ……風に舞う土埃 上り坂の向こうの景色 をたしかめにいきたい</p> <p>↓「私」を包みこむ</p> <p>↓そんな気持ちを味わう</p> <p>絵のなかに入りこんだのだから</p> <p>↓</p> <p>絵のなかに存在している気分</p> <p>「内容をつまみ直そう」で確認したことを生かす。13～17行目と27行目に注目させる。</p> <p>「内容を捉え直そう」で見たように、筆者がまなちゃんの絵を見たときの状態を表した慣用句を完成させる問題。</p> <p>「目が釘付けになる」⇨心がとらわれてしまっている状態。</p>							

復習問題		問題ページ	指導内容・留意事項など							
(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(P43)	(P42)	問題番号
<p>○憤然⇨怒りいきどおるさま。</p> <p><b>重要語句</b></p>		<p>「あの蜜柑は幸せ者と思った」の部分である。蜜柑が親切で心優しい男の子からの「贈物」となり、幼いおちびさんに手渡され、そして二人のバイバイへと続く。その光景を筆者は心温まる思いで眺め、それを書き留めたかったことをつかむようにさせる。</p> <p>随筆で筆者が最も述べたいことは、最終段落で述べられることが多いことを確認させる。この文章で筆者が述べたかったのは、最後の一文の中の「あの蜜柑は幸せ者と思った」の部分である。蜜柑が親切で心優しい男の子からの「贈物」となり、幼いおちびさんに手渡され、そして二人のバイバイへと続く。その光景を筆者は心温まる思いで眺め、それを書き留めたかったことをつかむようにさせる。</p> <p>随筆文では、事実⇨筆者の感想、という流れで述べられることが多いことは確認しておきたい。筆者の考えたことは、——線④の前後の文に書かれている。「少々の収穫はあったらしい」「私が傍へ行つて……お節介がましい気がする」という表現に着目させる。</p> <p>「からっぽのビニール袋」から、男の子はこの蜜柑以外に何も拾えなかったことを読み取らせる。自分が拾ったたった一つの蜜柑を「おちびさん」にあげたのである。</p> <p>——線④の直後の段落の「おちびさんは、まだ、それ⇨蜜柑が親切な坊やからの贈物であること」を説明するだけの言葉を知らない」という記述をもとに考えていく。幼いおちびさんは、男の子から蜜柑をもらい、とてもうれしかったが、それをうまく言葉にできないので、その精一杯のお礼の気持ちを込めて「バイバイ」と必死に叫んだのだと筆者が見ていることを読み取らせる。</p> <p>随筆で筆者が最も述べたいことは、最終段落で述べられることが多いことを確認させる。この文章で筆者が述べたかったのは、最後の一文の中の「あの蜜柑は幸せ者と思った」の部分である。蜜柑が親切で心優しい男の子からの「贈物」となり、幼いおちびさんに手渡され、そして二人のバイバイへと続く。その光景を筆者は心温まる思いで眺め、それを書き留めたかったことをつかむようにさせる。</p>								

# 古典(1)

【指導のポイント】

◆指導ページ P.44～49◆

- ★歴史的仮名遣いから現代仮名遣いへ正確に直せるようにする。
- ★古今異義語や古文特有の言葉の意味に注意しながら現代語訳できるようにさせる。
- ★会話部分を正確に捉えられるようにする。

演習問題		問題ページ	指導内容・留意事項など
(7)	(6)	(5)	<p>○(人の)がり〓その人のもとに。その人がいる所へ。</p> <p>○心づきなし〓氣にくわない。不愉快である。</p>
(4)	(3)	(2)	
(2)	(1)	(P47) 2	
(4)	(3)	(2)	
(3)	(2)	(1)	
(4)	(3)	(2)	
(3)	(2)	(1)	

**重要語句**

現代語訳と対照させる。「文」には、「手紙」や「書物」の他、「学問(特に文学・漢学)」「漢詩」などという意味もある。

古文と対照させて探させる。いずれも重要語なので、覚えさせる。

現代語訳から読み取らせる。イは現代語訳7行目、ウは現代語訳2・3行目の内容とそれぞれ合わない。



**復習問題**

復習問題		問題ページ	指導内容・留意事項など
(9)	(8)	(7)	<p>語頭と助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、「わ・い・う・え・お」と直すことを確認させる。</p> <p>古今異義語であることに注意し、衛門督が猫を「かわいらしい」と思っている場面であることを捉えさせる。</p> <p>直前に「と」とあることに着目させる。「ねうねう」の部分が猫の鳴き声である。</p> <p>「ながめて」の直前にある「いたく」は「とても」という意味で、現代語訳の「深く」が該当することに注意させる。</p> <p>語頭と助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、「わ・い・う・え・お」と直すことを確認させる。</p> <p>余吾大夫に対して答えている蜂の言葉から読み取らせる。余吾大夫には「残りたるもの」を、「二三十人ばかり……集め給へ」と言い、自分は「蜂の巣四五十」の仲間を集め、「力を加へ奉らむ」とある。</p> <p>冒頭から「といへば」の直前までが余吾大夫の発言内容であることを捉えさせる。</p> <p>「わが」は、会話主である蜂自身を指すことを捉えさせる。</p> <p>④ 直後の一文にある「……ためなり」という理由を述べた表現に着目させる。</p> <p>⑤ 相手に依頼・命令する表現に着目させる。</p> <p>古今異義語であることに注意させる。</p> <p>文脈をさかのぼり、指示内容を捉えさせる。「その軍し給はむ日」とあることに着目させる。</p> <p>「いぬ」は「去ぬ」と書き、「去る。行ってしまふ」という意味。</p> <p>各選択肢の記述内容と、問題文とをきちんと照らし合わせるようにさせる。</p>
(6)	(5)	(4)	
(4)	(3)	(2)	
(2)	(1)	(P49) 2	
(3)	(2)	(1)	
(4)	(3)	(2)	
(3)	(2)	(1)	
(4)	(3)	(2)	
(3)	(2)	(1)	

**重要語句**

○かしづく〓大切に世話をする。

○契る〓約束する。



# 古典(2)

【指導のポイント】

◆指導ページ P.50～55◆

- ★係り結びの法則を理解させる。
- ★古文の文章において、前後の文脈に注目させながら、主語・述語を捉えさせる。
- ★漢文・漢詩の基本的な知識を身につけさせる。

演習問題		問題ページ
(5)	(4)	(P52) 1(1)
(3)	(2)	(P53) 2(1)
(5)	(4)	(3)
(3)	(2)	(2)

**重要語句**

○自余〓それより他。それ以外。

○優なり〓趣がある。優雅だ。優れている。けなげである。

波線部をひらがなにしてから現代仮名遣いに直させる。  
 「さうらはんうへ」↓「a+u」↓「ò」なので「さう」↓「そう」、語頭・助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に直すので「は」↓「わ」、「へ」↓「え」。

「整理しよう」で学習した内容を復習させる。①・②ともに、③から考えるとうわかりやすい。

① 「か……たる」の係り結び。④「か」は、疑問・反語の意味があるので、現代語訳を参考に文脈から疑問と判断させる。

② 「ぞ……ける」の係り結び。④「ぞ」は強調の意味のみ。

古文の2～4行目と対応する現代語訳に注目させる。

宇治殿「春は桜をもて第一とす」

大納言「梅の候はんうへは、桜第一にてはいかが候ふべき」

実際にあてはめて読ませてみる。古文において、助詞が省略されることが多いことを理解させる。

直前の大納言の発言(現代語訳6・7行目)を受けている。

「整理しよう」で見たように、漢詩は、一句の文字数と句数によって形式が分けられていることを確認させる。問題の漢詩は、一句が五字で四句からなっているのでアの五言絶句。

「整理しよう」を参照させる。五言絶句は偶数句末が押韻。

書き下し文の漢字の順に漢詩の漢字に番号をつけさせる。

水を渡り 復た水を渡る

渡り水ヲ 復タ 渡り水ヲ

この番号順に読めるように返り点と送りかなをつける。

②と①、④と⑤は一字ずつ返っているのでレ点を使う。

「整理しよう」で見たように、レ点は一字返るとき、一・二点は二字以上返るときに使うことを覚えさせる。

助詞・助動詞はひらがなに直すので、「不」は「ず」と書かせる。

現代語訳を参考にさせる。「いつのまにか」という表現と作者が川沿いの景色を見ながら来たことを捉えさせる。

指導内容・留意事項など

復習問題		問題ページ
(7)	(6)	(P54) 1(1)
(5)	(4)	(P55) 2(1)
(3)	(2)	(3)
(4)	(3)	(4)
(5)	(4)	(5)

**重要語句**

○香炉峰〓中国にある高い山の名前。「香炉峰の雪は簾を掲げて見る」という白楽天の詩は古文中にもよく引用される。

歴史的仮名遣いの「は」↓「わ」、「ちゆう」↓「ちゅう」、「じやう」↓「じょう」と直すことを確認させる。

係り結びの結びは、「こそ」は已然形、「ぞ」は連体形になることを定着させる。

「かは……べき」という反語の係り結びなので、「誰も訪ね申し上げない」という意味になっている。反語は、「くか、いや、くない」と、訊ねる内容とは逆の内容を強調する表現であることを確認させる。

実際にあてはめて読ませてみる。「在中将(業平)」が「参上した」の主体になっていることを押さえさせる。

同じ一文の最初に「宮は」とある。一文が長い古文では、丁寧に文脈をさかのぼり、主語を捉えさせる必要がある。

一句五字(五言)で、四句の詩(絶句)である。

「整理しよう」にある漢詩の押韻の位置を確認させる。

現代語訳と対照させる。「幽」には、「隠れる」という意味がある。

④ 「土を出づれば長ぶるを容さず」という書き下し文の読み方になるように、読む順番の数字を振るようさせる。

出土 不容 長

2 1 5 4 3

振った数字をもとに、返って読む箇所に戻り点をつけていく。1から2に、3から4に、4から5にそれぞれ一字返るから、いずれも「レ点」を使う。

⑥ 「長ぶる」のは「筍」で、「容さ」ないのは「幽人」であることを捉えさせる。

前問を踏まえつつ、「幽人」が筍を焼くことを捉えさせる。

「一・二点」が用いられている箇所注意させる。「二点」がついている「似」を読む前に、「一点」とその上にある「竹」を読むことを確認する。

人里離れた場所に住む風流な「幽人」が、竹林で筍を焼く光景を描いていることを読み取らせる。

指導内容・留意事項など



【指導のポイント】

- ★文を「文節」や「単語」に分けることができるようにする。
- ★各品詞の働き、活用、識別の方法を身につけさせる。

演習問題		問題ページ
(3)	<p>・文の終わりにある↓終助詞(ア)</p> <p>・文の途中にある「が」と言い換え可能↓部分の主語(エ)</p> <p>格助詞 ↓ 「体言+の+体言」⇔連体修飾語(ウ)</p> <p>「こと・もの」の意味⇔体言の代用(イ)</p>	1
(2)	<p>NO 「～な」と言える↓形容動詞の活用語尾(エ)</p> <p>「～な」と言えない</p> <p>助動詞↓体言・助詞「の」につく⇔断定(イ)</p> <p>↓用言・一部の助動詞の連用形につく</p> <p>⇔過去・完了などの「た」が濁ったもの(ア)</p>	1
(1)	<p>空欄前後のつながり方から判断させる。実際にあてはめて確認させる。</p> <p>ウ「例えば」とカ「つまり」は副詞なので注意。</p> <p>・「どうも～らしい」と言えるもの↓推定の助動詞(ウ)</p> <p>・「とても～らしい」と言えるもの↓形容詞の一部(ア・イ・エ)</p> <p>(注意)ア⇔「かわいらしい」で形容詞。イ・エ⇔「男らしい」・「春らしい」で一語の形容詞。「らしい」は接尾語。</p> <p>「ようだ」「そうだ」の一部かどうか確認↓YES↓(ウ)</p>	1
(4)	<p>直後の「ね」は、打ち消し(否定)の助動詞「ぬ」の仮定形なので、空欄には未然形が入る。サ行変格活用「する」の未然形「さ・し・せ」のうちどれがあてはまるかは、実際にあてはめて考えさせる。</p> <p>直後が句点なので、終止形か命令形と考えられる。「父にせかされた」という文脈から、命令形が入ると判断させる。</p> <p>陳述(叙述)の副詞の問題。呼応の仕方は、セットにして覚えるよう指導する。</p>	1
(1)	<p>空欄の直後の単語や句読点などに注目させる。</p> <p>兄一が 二 ようやく 二 学校一から 二 帰つた。</p> <p>静かな 二 高原一で 二 夏休み一を 二 過ごした。</p> <p>映画一を 二 鑑賞する一のが 二 私一の 二 趣味一だ。</p> <p>思い切つて 二 海一に 二 飛びこんだ。</p>	1
(2)	<p>「大きい」という形容詞の語幹に接尾語の「さ」が付いて、名詞化していることに注意させる。</p> <p>文を、意味を壊さない程度に短く切ったものが文節であることを確認させる。</p> <p>「すいすいと」「とても」「長い間」はいずれも用言を修飾している。</p> <p>「難しい」は形容詞で体言を修飾する。</p> <p>空欄の直後の単語や句読点などに注目させる。</p> <p>「さも」は「～のように」などの言葉を導くことに注意させる。</p> <p>空欄前後のつながりを捉えさせる。</p> <p>「さて」には改めて動作を起こすときに用いる感動詞としての働きがあることに注意させる。</p> <p>「なぜなら」は前の文の理由を後から述べるときに用いる。</p> <p>「勝てるような」は推定の助動詞である。ア・エ「雪のような」「花のような」は「まるで～のような」という意味の比況の助動詞、イ「父のようない」は「例えば～のような」という意味の例示の助動詞であるので、注意が必要となる。</p> <p>「なりたいたいそうだ」は伝聞の助動詞。ア・イ・ウ「からそうだ」「過ごしやすそうだ」「早くなりそうだ」は様態の助動詞である。</p> <p>「練習するとうまくなれる」は接続助詞。ア「花とお菓子」は並立、イ「具合が悪いと打ち明けられなかった」は引用、エ「兄と一緒」は共同の相手を表す格助詞。ウ「抜けると雪景色が広がっていた」が接続助詞である。</p> <p>「席に座った」は目的地を表す格助詞。ア「家に帰った」は目的地を表す格助詞。イ「父によく似ている」は基準、ウ「三時に校門で」は時点、エ「雨にぬれた」は原因を表す格助詞。</p> <p>「友人に……説明される」は受け身の助動詞。ア「見られる」は可能、イ「思い出される」は自発、ウ「校長先生がいささつされる」は尊敬を表す助動詞。</p>	1

指導内容・留意事項など

問題ページ

指導内容・留意事項など

復習問題		問題ページ
(5)		1
(4)		2
(3)		3
(2)		4
(1)		5
(6)		6
(7)		7

# 表現

【指導のポイント】

◆指導ページ P.68～73◆

★文法的に適切で、伝えようとする意図が明確な表現を書かせる。

★与えられた条件に沿って、文を書かせる。

★表現の型を身に付けさせ、意見文の書き方を押さえさせる。

演習問題			演習問題		
(P71)	(P70)	問題ページ	(P73)	(P72)	問題ページ
(6)	(1) (2) (3) (4) (5) (6)	指導内容・留意事項など	(6)	(1) (2) (3) (4) (5) (6)	指導内容・留意事項など
<p>(1) 自分の意志を表す「まい」が入る。 前後が順接の関係になっていることを捉えさせる。</p> <p>(2) 「さぞ(や)」は「きつと」の意。仮定・順接の意味の「ば」が入る。 直後で「トマトやキュウリ」という具体例が述べられている。</p> <p>(3) 自分が「行く」ということを言うので、謙譲語にする。「伺います」なども可。</p> <p>(4) 自分が「聞く」ということを言うので、謙譲語にする。 「先生」が「入ってくる」ことを言うので、尊敬語にする。</p> <p>(5) 自分が「食べる」ことを言うので、謙譲語にする。</p> <p>(6) 「私は」に対応する述語「がんばる」あるいは「～と思う」などを補う。</p>		<p>(1) 雨に加えて風も、という文脈である。また、「姉の話では」とあるので、伝聞であることを捉えさせる。</p> <p>(2) あとで勉強方法の具体例を挙げているので、例示「たとえば」。また、その具体例を二つ並べて述べているので、列挙を示す「たり」が入る。 仮定を表す「ならば」が入る。「構わない」とあとに続くので、逆接の意味の「ても」が入る。</p> <p>(3) 「勝ちたかった」とあとに続くので、「どうしても」や「ぜったいに」が入る。前の文の結果があとにきているので、順接の「だから」が入る。 「お客さま」が敬意の対象であることを捉えさせる。「お～する」が謙譲語の形で、「お～になる」は尊敬語の形である。</p> <p>(4) 「私」が先生に渡すので、謙譲語を使う。</p> <p>(5) 品物をへりくだって表現するときは「粗品」という。 先生が食べることを言うので、尊敬語を使う。</p> <p>(6) bは、「決して」が陳述(叙述)の副詞であることに気付かせる。「ない」という打ち消しの表現に直す。dは、「私」自身が思っていることなので、「始めよう」などと意志を表す表現にする。 bは、「もし」を受けるので、「なら」という仮定の表現でなければならぬ。 cは、教えてほしいと言われていたから話すということなので、順接。</p>			
<p>(1) 自分の意見を述べるので、「～と考えます・思います」などと述べる。 家が狭いので犬には住みにくいと述べたあと、猫を比べて述べている文脈であることを押さえさせる。「住みやすさ」を述べている選択肢を選ぶことになる。</p> <p>(2) 猫を、犬と比較して飼いやすいことを論じていることから考えさせる。 「散歩も必要なく」「鳴き声も小さい」ということは、飼い主にとつては良い点(＝「長所」)である。「利点」なども可。対義語は「短所」であり、また、「長所」＝「メリット」(対義語は「デメリット」)なども言われることは、あわせて押さえさせておくことよい。</p> <p>(3) ここまでに述べた内容から、結論を述べようとしていることを踏まえさせる。 第一文で、ペットにするのは「猫の方がよい」という結論を述べ、さらに、最後の一文でも、「ペットを飼うなら猫にすべきです」という結論を再度述べているので、「双括型」である。</p>		<p>(1) aは、「フランス」が留学先である。dは、「私」が「ぜひ」したいと思っていることなので、「活かしたい」などと述べる。</p> <p>(2) 「先生」が「説明する」ので、尊敬表現を用いるようにさせる。 「必ずしも」という副詞は「～ない」と打ち消しの語を伴う陳述(叙述)の副詞であることに注意させる。</p> <p>(3) 最初の一文で「携帯電話の使用を制限すべきだ」という意見を述べているので、①は、その根拠となることを述べている部分である。「～(だ)からだ」という文末表現に着目させる。 自分たちには判断できないから、自分で責任が取れないことは、という文脈を捉えさせる。</p> <p>(4) 「自分で責任が取れないことは」に続く文脈である。「携帯電話の使用を制限すべきだ」という意見を踏まえて考えさせる。 自分たちには何がどのくらい危険か「まだ判断でき」ないので、保護者の「判断」にゆだねると述べている。</p> <p>(5) 携帯電話を使用することでトラブルなどに巻き込まれるかもしれない危険があると考えているので、使用の制限によって、「携帯電話を使用するとき」の危険性が減少するという文脈へと導かせる。</p> <p>(6) 第一文で意見を述べ、そのあとで理由を述べているので、「頭括型」。</p>			